

すばる小委員会の記録

回	開催日	所長報告	すばる運用
SAC1	2014/8/19	<ul style="list-style-type: none"> ・光赤外専門委員会の承認前なので、すばる懇談会として開催する。 ・特に大きな動きはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PI装置の受け入れスケジュールについて高遠氏から説明があった。 ・韓国人PIの扱いについて、KASIがGemini時間を購入するという情報があるので、Geminiを通じてすばるにアクセスする可能性があるのか所長に確認を依頼した。 ・2013年のS-CamとFOCAS論文が減っており、冷却水漏れの影響が懸念される(所長)。
SAC2	2014/9/24	<ul style="list-style-type: none"> ・TMT起工式が10/7に開催される。 ・韓国が購入したGemini10夜については、すばるとの時間交換に使う予定はないことを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持込装置を用いた外国人の観測提案については、時間交換枠を用いるか日本人PIを立てるという二つの窓口があることを装置受け入れ審査の際に周知徹底する。 ・1月にFMOSデコミッションを判断するためのレビューがあるので、その前にPFSの最低性能について議論したい。12月のSACにPFSチームの代表を招いて議論できないか問い合わせる。 ・S15AのHSC観測時間について、戦略枠対一般共同利用の割合を2:1にするという観測所案を承認した。 ・岩田副所長から装置デコミッションのキックオフとなる説明があった。今後SACと観測所合同でタスクフォースを形成して議論を進める。
SAC3	2014/10/22	<ul style="list-style-type: none"> ・ハワイ大学ヒロ校から、シラバス作成への協力依頼があった。 ・TMT起工式は現地反対派の人が居たため山頂での儀式を中断し、コナのパーティー会場で儀式を続行し、完了した。 ・Keck戦略会議参加報告:TMT時代へ向けてKeckの戦略を議論する会議だったが、すばるとの連携に興味を持っていた。日本側としての戦略を検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・装置デコミッションのタスクフォースにSACからは柏川委員長、成田委員、田中委員が加わる。12月のSACまでにタスクフォースで原案を作成し、SACでの議論を経て1月のUMでデコミッションプランを提示する。 ・HSCフィルターの選択・決定手順の観測所案(公募開始の2週間前までに戦略枠チームが使用するフィルターセットを決定し観測所に連絡する)が示され、承認した。
SAC4	2014/11/19	<ul style="list-style-type: none"> ・特に大きな動きはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すばるの今後の科学戦略について所長構想(サーベイ中心、ULTIMATE-SUBARU、装置デコミッション)が説明された。今後TMT-Jとの協議も必要になる。 ・IRDチームの小谷氏、大宮氏を招いて観測計画の概要を伺った。戦略枠公募については装置の立ち上がりを見ながら来年改めて協議する。 ・すばるPIOの取り組むべき内容について所長から審議依頼があり、目的意識の高い団体の見学は引き続き受けれることとした。

すばる小委員会の記録

回	開催日	所長報告	すばる運用
SAC5	2014/12/24	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度予算の見通しが厳しい。 ・韓国は2016年1年間だけGeminiのパートナーとなるそうだ(2015年は時間を購入)。 	<p>すばる運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S15A TAC報告(サービスの採択倍率が高くなりすぎているので、ノーマルと同程度になるようサービス夜数を決める。外国人の時間交換への応募は日本人との共同研究に限り認める。HSC戦略枠PIに太陽系分野のHSCプロポーザルについて何等かの基準設定を依頼する。韓国がGeminiパートナーとなった場合は、すばるへの直接応募はできず、時間交換枠を通す。Metal-poor starsというカテゴリを次回から新設する。) ・装置デコミッションについてタスクフォースでの検討結果、及び観測所案の紹介(MOIRCS, COMICS, FOCASの休止or終了の可能性)。 ・インテンシブ枠の期間延長要望がHSC NBフィルター製作チームから出された。ユーザーの意見も聞いた上でインテンシブ枠の改革案について再審議する。
SAC6	2015/1/27	<ul style="list-style-type: none"> ・予算が厳しいが旅費補助2名は維持する。次回予算が確定した時点で再度予算について取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・S15BのHSCランは4回、20夜～30夜になる予定(観測所からの報告)。 ・HSC SSPの中間審査は2016年を予定していたが、60夜観測して全体の1/5のデータが取れてから、というチームからの要望があり、これを了承した。 ・2014年末に観測所としてIRDの受け入れを決定した。IRDの戦略枠公募は2015年7月初めに公募要項をだし、9月末日に締切とする。審査スケジュールを迅速化し、S16B観測開始とする。 ・インテンシブ枠で20夜を超えた観測の可能性がある(希望があれば所長に相談すること)を公募要項に明記する。 ・今後はすばるプロポーザルのabstractは公開することとし、S15B公募要項に明記する。過去の方はPIの同意を得た分のみ公開する。 ・将来の国際共同運用の可能性について検討した。
SAC7	2015/2/24	<ul style="list-style-type: none"> ・特に報告すべき問題はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観測旅費の支給についてすばる室長から現状説明を受けた。
SAC8	2015/3/25	<ul style="list-style-type: none"> ・2月末から2週間ほど雪・悪天候で観測できない日が続いた。 ・国際外部評価報告(成果論文数は復調傾向で望遠鏡のダウンタイムも減った。審査員は概ね好印象だった。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・インテンシブ枠についてはユーザーに様々な意見があるため、SAC・TAC合同でWGを立ち上げて検討することとした。 ・2015年度は文科省からの特別経費が大きく削減され、共同利用にも影響が出る。旅費補助2名は維持するが、1観測ランあたりの航空券代に上限(通常30万、繁忙期36万)を設ける。 ・岩田副所長からキューモードに関するユーザーアンケートの結果報告、コメントの紹介があり、引き続いて、キュー観測運用案の説明があった。SAC委員からは効率的なキャリブレーションの方法の検討、QAツールの検討、ToO方針の策定が必要とのコメントがあった。 ・FMOSをハワイ島の他の望遠鏡に移設して使い続けたいので、SACの了承が得られれば自分で交渉するというユーザーからの提案があった。すばるには資金・人の余力はないが、情報提供等の協力はできると回答する。

すばる小委員会の記録

回	開催日	所長報告	すばる運用
SAC9	2015/4/22	<ul style="list-style-type: none"> ・TMTの反対運動があり、建設工事を中止している。MKの全観測所長が対応を協議しているが、観測者やダイクレーが山頂に上がれない事態もありうる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・FMOS移設についてはSilverman氏と所長の連名でCFHT所長にコンタクトし、返事待ちの状態であることが報告された。 ・すばるプロポーザルのabstractの公開については、S12A-S13Aの採択者に公開の可否を問い合わせた。公開可と回答した43名分について公開の準備を進める。 ・共同利用観測の旅費削減のために、TACに「最低必要夜数を割り込んだ採択は慎重にお願いする」という文書を観測所から送る。近年増えてきた細切れの採択を抑制することがねらい。
SAC10	2015/5/27	<ul style="list-style-type: none"> ・TMT反対運動に対応するため、所内に危機管理委員会を立ち上げ、週1回打ち合わせを行っている。 ・ハワイ州知事の会見があり、TMTは正規の建設認可手続きを経ているので、建設をサポートする、とする一方で、(マウナケア山頂を管理する)ハワイ大学への10項目の要望が示された。TMT稼働までに現状の25%の望遠鏡をデコミッションしてほしい、という内容を含む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに3枚のHSC NBF製作が承認され、現在製作中も含めて計15枚となっている(観測所からの報告)。 ・SEEDS PIの田村氏をゲストに招いてSEEDS終了報告を受け、質疑を行った。 ・プロポーザル当りの観測夜数の減少問題について議論を行い、今後はプロポーザルにminimum夜数の根拠を明示することとした。 ・TACが改選時期となるが、6名の任期満了退任、2名の退任希望がある。退任希望を認め、光天連に6月末までに後任候補者の推薦を依頼する。
SAC11	2015/7/8	<ul style="list-style-type: none"> ・TMT建設反対運動のため山頂への道路が通行不能となり、6/24の観測が中止となった。山頂の一般見学も中止している。この件に関連してマウナケアの所長団がハワイ州知事と面談した。 ・KASI所長に「すばるへの人的・資金的貢献を期待する」という所長レターを送った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HSCキューモード観測をS16Aから部分的に始める準備を行っている(所長報告) ・2016年5月末にFMOSをデコミッションする観測所案を承認した。 ・IRD戦略枠公募について装置開発状況等を検討し、当初7月開始予定だった公募を、半年遅らせることとした。 ・FMOS戦略枠PIの戸谷氏をゲストに招いて終了報告を受け、質疑を行った。 ・光天連推薦名簿が届いたので、TAC推薦と併せて検討し、TAC委員候補を決定した。 ・S-Camの利用をS16Aからリスクシェア(ランはセメスタ1回、使用はS16Bぐらいまで)とする観測所案を承認した。

すばる小委員会の記録

回	開催日	所長報告	すばる運用
SAC12	2015/8/26	<ul style="list-style-type: none"> ・TMT建設工事は再開できていないが、各観測所は通常業務を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HSCの生データ公開を(観測遂行が当初予定より遅れているため)1年延期して2017年2月とし、中間審査もそれに合わせて同時期に行うこととした。
SAC13	2015/10/7	<ul style="list-style-type: none"> ・定例のマウナケア所長会議・マウナケアUM(春と秋の2回、持ち回り)が今年はKeckで行われた。 ・TMT建設工事の再開時期は未定。 ・ハワイ文化の理解のために月に一度講演者を招いて勉強会をすることにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学とNAOJ合同での記者発表の仕組みの整備について、所長から観測所広報担当(=>NAOJ情報センター)に提案する。 ・戦略枠の最終報告書を公開すべきだとの意見が光赤外専門委員会が出されたので、二つの終了した戦略枠のPIIにUMで報告していただき、その発表ファイルをウェブで公開することとした。
SAC14	2015/11/18	<ul style="list-style-type: none"> ・TMT建設工事は11/18再開予定だったが、ハワイ州最高裁から最低2週間の工事中止命令が出たため、明日の工事再開はなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・S16Aの採択会議での議論についてTAC委員長から報告があった。ターゲットが未定の提案はサービスプログラムの趣旨に合わないので、ノーマルプログラムに提案してもらうこととした。 ・インテンシブ枠の今後の運用とtime-domain観測に対応する方法について併せて検討した素案を田中委員・高田委員から提示していただき、セメスタあたり最大20夜、最大6セメスタ40夜とする案をSAC案としてUMIに提案することにした。

すばる小委員会の記録

回	開催日	所長報告	すばる運用
SAC15	2015/12/22	<ul style="list-style-type: none"> ・所長と岩田副所長がオーストラリアを訪問し、連携の可能性について話し合った。 ・PFSに中国人研究者が参加することになった。NAOJの予算状況が厳しいので、予定通りPFSのための予算を確保するようSAC提言を準備したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・IRDチームの小谷氏・大宮氏を招き、装置開発状況を伺い、併せてハワイ観測所美濃和氏に戦略枠公募スケジュール案を伺った。2016年1月に予定していたIRD戦略枠公募は延期し、必要に応じて3月に再度公募開始時期を検討する。 ・インテンシブ枠をセメスタあたり最大20夜、最大6セメスタ40夜に拡大するSAC案をUMIに提案する。
SAC16	2016/1/27	<ul style="list-style-type: none"> ・国際共同運用については相手国と個別の相談を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・UH,IfA所長のHasinger氏から、eROSITA関連のHSCデータの占有期間延長希望が出された。今後慎重に議論をする。 ・今後の望遠鏡時間について岩田副所長が試算したところ、2020年代にはマシンタイムが不足する。HSC SSPの加速実行(1セメスタ30夜を超えて実行する)やUH時間のSSPへの合流を含めて今後検討としていく。 ・PFS戦略枠の公募スケジュール案についてハワイ観測所高遠氏から説明があり、分野別の審査とすることも含めて継続審議となった。 ・PFSを実現に向けて予定通り2016年度に望遠鏡・ドーム改修作業を進められるよう予算の手当てをお願いしたいとの要望書をSACから台長に提出する。 ・インテンシブ枠をS16Bから最大6セメスタ40夜(1セメスタ最大20夜)に拡大する。 ・S16BからGeminiとの時間交換でインテンシブ/LLPを双方応募可能とする、GeminiのFast Turnaroud Programにすばるから応募可能とする(1セメスタ5夜まで)。
SAC17	2016/2/23	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度韓国がRCUH職員を若干名雇用して送ってくることが外部資金導入の最初になる見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の台内予算配分が決定的だが、ハワイ観測所の状況は厳しい。主鏡蒸着やHSCデータ解析用計算機、PFSのための床改修予算等が減らされたため、所内で対応を検討中。 ・UHのデータ占有期間延長希望について追加資料を元に再度議論したが、Hasinger氏が欠席のため、次回再度議論する。

すばる小委員会の記録

回	開催日	所長報告	すばる運用
SAC18	2016/3/23	<ul style="list-style-type: none"> ・2/22の保守作業中にミラーハッチを破損する事故があり、エンジニアリング4夜、共同利用観測3夜がキャンセルされた。今夏の主鏡蒸着が予定通り行えるかどうか検討中。 ・2016年度予算は2015年度予算とほぼ同額となった。 ・TMTは2016年中に保護地区利用許可の取り直しを目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・UHから提出されたHSCデータ占有期間延長希望については、共同利用観測開始当初からの18ヵ月ルールを尊重して不承認とし、UH側もこれを了承した。 ・2010年3月に光赤外専門委員会から出された提言書の第一章を、ハワイ観測所の現状に照らして検討した。すばるの機能強化(保守・運用)のために科研費などの外部資金獲得を目指す。そのためにこれまで大学の研究者がすばる関連で獲得した科研費について調べてみる。
SAC19	2016/4/26	<ul style="list-style-type: none"> ・ミラーハッチの修理のために主鏡蒸着(のダウンタイム)が9/15-11/6に延期された(SAC Newsletterで告知する)が、S16Bの予定が流動的なので、TACにバックアップ課題の選定を依頼している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ULTIMATE-Subaruの外部評価が行われ、GLAOと広視野撮像が評価されたが、段階的な装置開発プランと強力なPIが必要との提言があった。 ・遊休検出器の貸出・譲渡について、公募の仕組みを整備することになった。検討委員会委員をSACが推薦する。 ・6/15の国際共同運用の関する意見交換会に向けて、観測所案の骨子(ボードの設置等)を伺い、意見交換を行った。
SAC20	2016/5/17	(右の各項目に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・S16BTACについてTAC委員長から報告があった(ダウンタイムを予告していたせいか応募数が少なかった。インテンシブ枠を拡大したせいかインテンシブの応募数が増えた。HSCフィルター課題=悪条件の際実施するキュー課題=の公募を初めて行った。)

すばる小委員会の記録

回	開催日	所長報告	すばる運用
SAC21	2016/6/22	<p>・ミラーハッチの修理については検討・作業を続行しており、今後のスケジュールは確定しないが、主鏡蒸着はS16B以降に延期となる。S17Bで主鏡蒸着を予定していた期間は、ミラーハッチの修理等の作業とバックアップ課題の観測を行う。</p>	<p>・ULTIMATE-Subaruは今後撮像装置の仕様決めとAOの設計、予算獲得の努力を進める。国際共同運用については拙速を避けるべきというユーザーコメントがあったが、やむを得ない財政状況による緊急性から、今後パートナー候補と議論を続けることが観測所から提案され、了承された。</p> <p>・IRD進捗について観測所から報告があり、検出器納入が遅れているため7月のSSP公募開始を延期した。9月公募開始を視野に次回再度検討する。</p> <p>・TAC委員がインテンシブPIとなる場合は、公募締切前に申告していただき、当該セメスタのみ代行者を選任(TAC経験者等からTACが推薦し、SACで承認)することにした。</p>

すばる小委員会の記録

回	開催日	UM、シンポジウム等	光赤外専門委員会・SAC内	国際協力	その他
SAC1	2014/8/19	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回すばる講演会を11/15に仙台に開催する。 ・12月初めに上海で日中連携の端緒となる合同WSを開催する。 ・2014年度のUMについて開催日程報告、及びSAC委員からのLOC選出(柏川委員長&宮田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・互選により柏川委員長、吉田副委員長を選出。 ・前期委員長より申し送り事項(Euclidからの連携オファーへの回答を保留中、装置デコミッションの議論が進んでいない)、及び今期SACの課題(運用現場の把握、共同利用の枠組みの再検討、戦略枠の検討、時間交換拡大の進め方の検討)の報告があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月末のKeck戦略会議に招待されたので、所長・ハワイ観測所美濃和氏・高田委員が参加する。 ・Keckから時間交換を拡大し、年間60夜交換したいというオファーがあったことが所長から紹介された。Keck分光は魅力だが、Keck戦略会議でよく先方の考えを聞いてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PFS進捗について観測所の高遠さんから報告(PFSはNAOJとして進めることになったが、予算は数億円不足)。 ・PASJの特集号は紙でなく費用のかからないウェブ版とする。論文集めに協力してほしい(嶋作委員)。
SAC2	2014/9/24	<ul style="list-style-type: none"> ・すばるUMの世話人代表の児玉氏を招き、大まかな議題案を検討した。UMの日程は会場の都合で1/13-15に変更となった。 ・JCMTサイエンス会議が9/1-2に三鷹で開かれた。 			
SAC3	2014/10/22	<ul style="list-style-type: none"> ・すばる秋の学校は順調に終了した(所長報告)。 ・UMのプログラム案が世話人代表の児玉氏から説明された。 		<ul style="list-style-type: none"> ・所長から中国との連携促進の意味で1夜供与の提案があったが、議論の結果保留とした。 ・Geminiとの交換夜数は最低5夜とMOUに規定されているが、日本側からのよい観測提案が少なくこれを下回ることがある。状況を見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PFSチームからの要望でFMOSデコミッションは延期となったので、SACでの議論も延期となるが、2015年1-2月にSACで情報交換会を開くことをPFS側に提案する。
SAC4	2014/11/19	<ul style="list-style-type: none"> ・1/16に開催予定のKeckとの連携の検討会について、次回のSACまでに所長・SAC委員長・前SAC委員長で参加者を決める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・上海WSの準備状況が所長から報告された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PFSのマネジメント態勢が変更になった(田村直之さんと高遠さんがマネジャー)。

すばる小委員会の記録

回	開催日	UM、シンポジウム等	光赤外専門委員会・SAC内	国際協力	その他
SAC5	2014/12/24	<ul style="list-style-type: none"> ・Keck戦略枠会議の開催(1/16)が決定した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・上海WS報告(中国側の関心が高い。すばる運用にin-kindで貢献できる由。中国人と共同研究する場合は日本人もTAPに応募できる。) ・日中連携WGを立ち上げるようになったので、所長が日本側担当者的人選を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PFS台湾会議報告(所長が戦略枠の上限緩和の可能性を示唆した)
SAC6	2015/1/27	<ul style="list-style-type: none"> ・すばるUM開催報告(参加者147名。初めて全て英語で行ったが、今後も継続する)。 ・1/16に開かれたKeck戦略会議の概要報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・東北大でSACを開催するための日程調整をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中連携WGのメンバーが決まり、プロポーザルの相談をすることになった。 	
SAC7	2015/2/24		<ul style="list-style-type: none"> ・深川委員がNAOJに転任になるのを機に退任を希望しているため、後任候補の人選を行った。 ・予算がどんどん減らされている状況にあって、大学教育にすばるが役立っていることを示す資料が必要になる。検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・所長からKeckとの連携戦略案が紹介された。Keckとの時間交換をセメスタあたり最大20夜に増やして様子を見るというもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PFSに関する意見交換会(ゲスト:IPMU田村氏、村山氏)を行った。
SAC8	2015/3/25		<ul style="list-style-type: none"> ・青木委員が中心となってすばるの大学への貢献をアピールする資料の準備を進める。 ・深川委員が今回で退任となる。後任は埼玉大学、大朝由美子氏。 		

すばる小委員会の記録

回	開催日	UM、シンポジウム等	光赤外専門委員会・SAC内	国際協力	その他
SAC9	2015/4/22		<ul style="list-style-type: none"> ・大朝委員(埼玉大学)が新たに加わった。 ・SAC専用のクラウドの準備が整い、使用を開始した。 ・高田委員にインテンシブWGのまとめ役を依頼した。 ・すばる関連学位取得者情報を各SAC委員が確認する。 ・7/8(水)に東北大でSACを開催し、院生との懇談、及び懇親会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9/1-2に仙台で開かれるSubaru-Keck WSの準備状況報告。 ・2016年に韓国がGeminiパートナーとなるという情報があつたが、まだ未定とのこと。韓国はすばるとの連携も視野に入れているらしい。 	
SAC10	2015/5/27		<ul style="list-style-type: none"> ・すばるの大学への貢献を示す資料は、概算要求の説明資料として使えそうなものを優先的に準備する。 ・次回の東北大での院生懇談会について、あらかじめいくつかの話題を提示して活発な議論を促すことにした。委員長が原案を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Geminiとの時間交換は最低5夜という約束になっているが、すばるからの質の良い提案が少なく、TACの努力にもかかわらずS15Bも3夜の交換にとどまった。Gemini側にGPIのブロック天体の開放の可能性について、またFast Turnaround Proposalにすばるから応募できるかについて問い合わせる。これまでの時間交換の成果を調査した上で再度議論する。 ・CFHT Uバンド撮像との時間交換について検討してほしいという依頼がCFHT所長からあつた。所長がユーザーの意見集約方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マウナケアはMaunakeaと一語で表記することになったので、ユーザーにも周知したい。 ・すばる体験企画の渡航費補助が今年は難しいという観測所からの報告があり、了承した。
SAC11	2015/7/8	<ul style="list-style-type: none"> ・6/16-17に三鷹でHSCキューモード観測WSを開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東北大でSACを開催し、引き続き現地スタッフ・院生との懇談を行い、忌憚のない意見交換を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年に一度のGeminiサイエンス・ミーティング(6/14-18 トロント)に、Keck, Subaruの所長が招待され参加した。 	

すばる小委員会の記録

回	開催日	UM、シンポジウム等	光赤外専門委員会・SAC内	国際協力	その他
SAC12	2015/8/26	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のすばるUMを1/19-21に熱海KKRで開催することとし、LOCを選任した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東北大でのSAC開催が大変有意義だったので、次は西日本、広島大で11/18にSACを開催し、その後現地での懇談を行うこととした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・S15Bに所長裁量時間から1夜中国提案に提供する可能性を検討したが、実現しなかった。 ・9/1-9/2に東北大でSubaru-Keck戦略会議を行い、今後のSubaruとKeckの連携について検討する。 ・10月に行われる韓国天文学会に所長が招待され、すばるを紹介する講演を行うことになった。 ・Geminiとの時間交換について、5月に行ったユーザーアンケートの結果も参考に議論し、Fast Turnaround枠への応募の可能性について、GPIのブロック天体の観測について、Gemini装置を含めたインテンシブ提案の可能性について、Geminiと相談しながら検討を進めることとした。 ・UHヒロ校の学部生教育に何らかの協力をしたいという所長提案を受け、総研大実習のノウハウの提供から試験的にを行うことを提案した。 	
SAC13	2015/10/7	<ul style="list-style-type: none"> ・UMでインテンシブ枠の今後の運用や、time-domain観測の実行について議論するため、SAC案を準備することとした。 ・2016年11/28-12/2に広島市内で開催する第6回すばる国際研究集会について、SOC/LOCに準備を進めていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回広島大での懇談会では、まず所長からすばる運用についてプレゼンしていただき、その後質疑を行うこととした。 ・光赤外専門委員会からの提言書への対応について、3月のSACで所長からプレゼンをしていただき、議論を行う。 ・年度内のSAC開催日を決定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仙舌のSubaru-Keck戦略会議は大変盛り上がりがあった。報告書が作成される予定。 ・Keckサイエンスミーティング参加報告(所長報告) ・韓国天文学会では、すばるが韓国との連携を希望する理由を率直に説明して理解を求めることとした。 ・日中連携WGの活動の進捗について、SAC委員長から日本側の委員6名に問い合わせることとした。 	
SAC14	2015/11/18	<ul style="list-style-type: none"> ・UMの開催準備は順調に進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島大での懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・GeminiとのMOU改訂案について検討し、Fast Turnaround Programへの参加はセメスタあたりの上限を5夜とすることで承認した。Large programについてはキューで行えるのか、交換夜数は少ない方に合わせる現在のやり方を維持するのかGemini側に確認した上でさらに検討し、UMでユーザーの意見を聞く。 ・UHが(1992年に交わされたagreementに基づき)SACに参加したい意向を示しているので、UMの際にUHを交えたSAC会合を持つこととした。 ・日中連携については個別の共同研究を進めて頂く形で様子を見る。 	

すばる小委員会の記録

回	開催日	UM、シンポジウム等	光赤外専門委員会・SAC内	国際協力	その他
SAC15	2015/12/22	<ul style="list-style-type: none"> ・UMの準備状況・参加登録状況報告(117名の登録、内学生は6人) ・大学とタイアップしたすばる講演会の地方開催について、SAC委員長が観測所広報担当の藤原氏と相談する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・GeminiとのMOU改訂案を承認し、UMに提案することにした。 ・WFIRSTとの連携プランについて山田亨氏、住貴宏氏を招き説明を受けた。UMでユーザーの意見を聞き、議論を継続する。 ・Euclidからの連携提案への対応についても、UMでユーザーの意見を聞き、議論を継続する。 	
SAC16	2016/1/27	<ul style="list-style-type: none"> ・UMには117名(内、海外機関から20名)の参加があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回から一部の議論にUH IfA所長のHasinger氏が参加することになった(その部分は英語で行う)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛星計画との連携についてUMでの議論を振り返り議論したが、さらに継続審議とする。 ・日中共同でプロポーザルを書くためのWSを日本で開催することを観測所が検討中。 	
SAC17	2016/2/23		<ul style="list-style-type: none"> ・TMT小委員長から合同開催の提案があった。具体的な話題がある折に合同開催を検討する。 ・来年度のSACの地方開催は前半に三鷹、後半に愛媛大で開催する。三鷹開催は6/22を予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第9惑星探査への協力依頼が米国から2件あった。日本人が中心となってインテンシブ提案をすることを推奨した。 ・TESSとの連携プランについて成田委員の説明を聞き、継続審議事項とした。 ・EUCLID, WFIRSTの比較について高田委員の説明を聞いた。4月に三鷹で衛星計画との連携を検討するWSを開催し、さらに夏季の光天連シンポジウムで一部の時間をいただきコミュニティの意見を聞いて方向性を決める。 ・スペインGTCから所長宛に時間交換提案があったが、先方の状況が不明のため、所長から問い合わせる。 ・次回のKeck-Subaru合同会議(於パサデナ)のすばる側世話人を高田委員と青木委員、観測所美濃和氏に依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PFS運用ポリシー案について高田委員の説明があった。PFSステアリング委員会にSAC委員長がコミュニティ代表として加わる。

すばる小委員会の記録

回	開催日	UM、シンポジウム等	光赤外専門委員会・SAC内	国際協力	その他
SAC18	2016/3/23	<ul style="list-style-type: none"> ・国際共同運用について「コミュニティー」の意見を聞く会合を6/15に三鷹で開催する。 ・3/4-5にHSC時間領域天文学(TDA)ブレインストーミング研究会が三鷹で開催された。物理研究者間にHSCへの期待が高く、白熱した議論が行われた。 ・4/21-22に三鷹で衛星計画とのシナジー検討会を開催するが、大局的な意見を述べていただく有識者4名を推薦した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度のSAC開催日を決定した(原則第4水曜の開催、は変わらず) 	<ul style="list-style-type: none"> ・GTCからの時間交換提案については急がずに様子を見る。 	
SAC19	2016/4/26	<ul style="list-style-type: none"> ・4/21-22の衛星計画とのシナジー検討会では、WFIRSTに2025年頃100夜程度用意できる可能性があるため、white paperを準備し、すばるの貢献が肝となるような研究テーマの検討する、Euclidについてはインテンシブ枠等を使い公募ベースでの共同研究を検討することになった。 ・一般向けのすばる講演会を地元大学・科学館と連携して地方で開催する(今年度は広島大学、信州大学を予定)。 		<ul style="list-style-type: none"> ・S17Aからセメスタあたり3夜のEAO時間が設定されることになった(所長報告。後日注:S17AとS17Bについてのみ決定)。 ・台長からオーストラリアのAALチェア宛に連携希望のレターを送った(所長報告)。 	
SAC20	2016/5/17	<ul style="list-style-type: none"> ・6/15の国際共同運用に関するWSでは、すばるの状況をよくユーザーに知っていただく。 ・アジア冬の学校とすばるの学校をマージして台湾で開催する方向で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検出器貸出検討委員会の委員候補者を選び、次期SACへの申し送り事項とした。 ・次期SAC委員候補について、光天連推薦を受けて検討したが、欠席の委員が多いため、候補者決定は次回とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・S17A・S17Bに所長裁量時間からEAOに3夜提供するが、EAOが希望しているTACへのオブザーバー参加は認めないことにした。 ・KASIの交渉担当者はEAOとの連携を歓迎しておらず、韓国国内の状況が不透明。在外日本人研究者に現地の状況を聞いてみることにした。 ・6月初めのカナダ天文学会の所長・岩田副所長が出席する(カナダも連携候補の一つ)。オーストラリアはすばるとの連携に興味を示している。(所長報告) ・天文台執行部からスペインGTCとの連携への協力依頼があった。 	

すばる小委員会の記録

回	開催日	UM、シンポジウム等	光赤外専門委員会・SAC内	国際協力	その他
SAC21	2016/6/22	<p>・6/15-17に三鷹で行われた国際共同運用に関する意見交換会及びULTIMATE-Subaru Science WSの概要が報告された。</p>	<p>・次期SAC委員候補者8名を決定した。委員長から依頼状を送り、内諾を得た上で光赤外専門委員会に上申する。 ・今期最終回のSACとなるため、退任委員から一言ずつコメントをいただいた(欠席の委員にはメールで依頼) ・三鷹懇談会(15:00～)</p>	<p>・S17A・S17BのEAO枠3夜については、EAO4か国が参加したjoint programを実施する方向で検討し、EAO側に打診する。 ・VLTのDirector of Scienceが来所し、観測所首脳と連携協議を行った。連携の形態はjoint proposalが望ましいが、今後国内ユーザーのニーズを見ながら検討する。 ・2020年頃すばるに主焦点ファイバー多天体高分散分光器を持ち込みたいと考えているカナダのグループがある。日本人研究者との連携が必須と伝えてある。</p>	